

秋田県市町村未来づくり協働プログラム

鹿角市プロジェクト「スキーと駅伝のまち“賑わい創出”プロジェクト」における事後評価調書

1 プロジェクトの目的

東山スポーツレクリエーションエリアを重点的に施設整備することにより、スポーツ拠点、スポーツ合宿地としての環境が充実し、市内外から人を呼び込み、全国に誇れるスキーと駅伝のまちを目指し、さらにはまちの賑わいの創出と地域経済の活性化を図る。

また、競技人口の底辺拡大と競技力向上のため、実業団・大学等の大型合宿の誘致を進めるとともに、一流選手からの指導機会を得ることによって、地元小・中・高校生の競技力の底上げや指導者養成を図り、市民が期待するトップアスリートの輩出に繋げる。加えて、全国規模の大会開催を誘致することにより、市民の関心やジュニア選手の競技に取り組むモチベーションの向上、選手や観客によるまちの賑わいといった相乗効果を得ようとするものである。

2 プロジェクトの概要

策定年月日	実施期間	鹿角市総事業費 (千円) A	交付金 (千円)	県事業・協働事業 費 (千円) B	総事業費(千円) A + B
H24.5.7	H24～H26	529,862 (565,562)	220,000	466,975	996,837

※鹿角市総事業費欄の（ ）内は計画値

【プロジェクトを構成する事業】

○鹿角市実施事業

事業名	総事業費 (千円)	うち交付金 (千円)	実施年度
東山スポーツレクリエーションエリア魅力アップ整備事業	363,001	220,000	H24～H25
スキーと駅伝のまちづくり事業	148,107	0	H24～H26
スポーツ交流事業	14,280	0	H24～H26
はばたけアスリート鹿角コーチング事業	4,474	0	H24～H26
計	529,862	220,000	

○県実施事業

事業名	総事業費 (千円)	実施年度
花輪スキー場施設改修事業	419,043	H24
スポーツを活用した交流推進事業	5,465	H24～H26
計	424,508	

○協働実施事業

事業名	総事業費（千円）	実施年度
鹿角広域観光推進事業	23,008	H24～H26
タレント発掘・育成事業	18,267	H24～H26
合宿・大会誘致事業	1,192	H24～H26
計	42,467	

3 プロジェクトの成果指標と達成状況

指標名	基準値 (23年度)	目標値 (26年度)	実績値 (26年度)	達成率
①スポーツ合宿利用者数	2,320人	2,700人	3,231人	120%
②主要な駅伝大会とスキー大会の参加者数	1,054人	1,350人	1,525人	113%
③ジュニアクリニック受講者数	537人	700人	700人	100%
④スキーと中距離種目の部員数	169人	200人	151人	76%
⑤各種スポーツ大会・合宿に係る費用対効果倍率	—	対事業経費 1.5倍	対事業経費 3.67倍	245%

※⑤費用対効果倍率の算出基礎とした大会は全国高等学校スキー大会（H26）

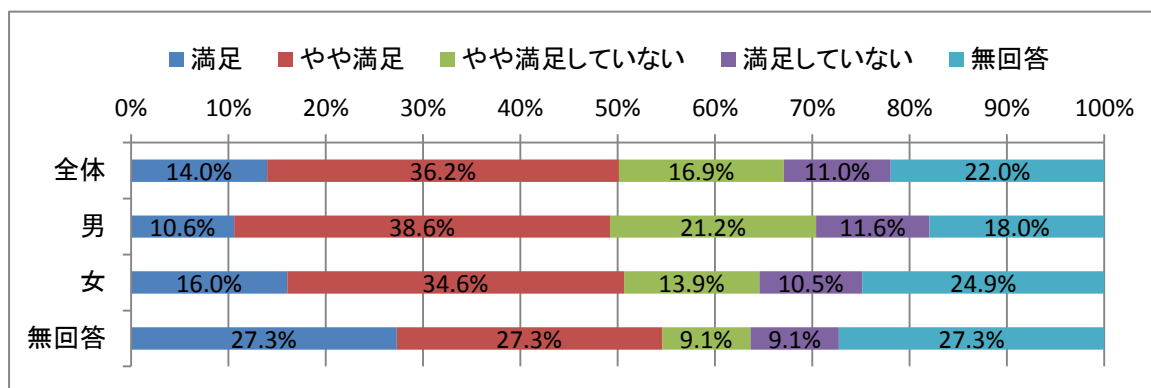
4 住民アンケート調査の結果

「満足」・「やや満足」が約5割、「満足していない」・「やや満足していない」が約3割、無回答が約2割となった。自由記載による「満足」の理由としては、「まちの賑わいを感じる。」・「鹿角のことを他県の人に知って貰える。」・「応援に参加できるのが楽しい。」等が挙げられている。

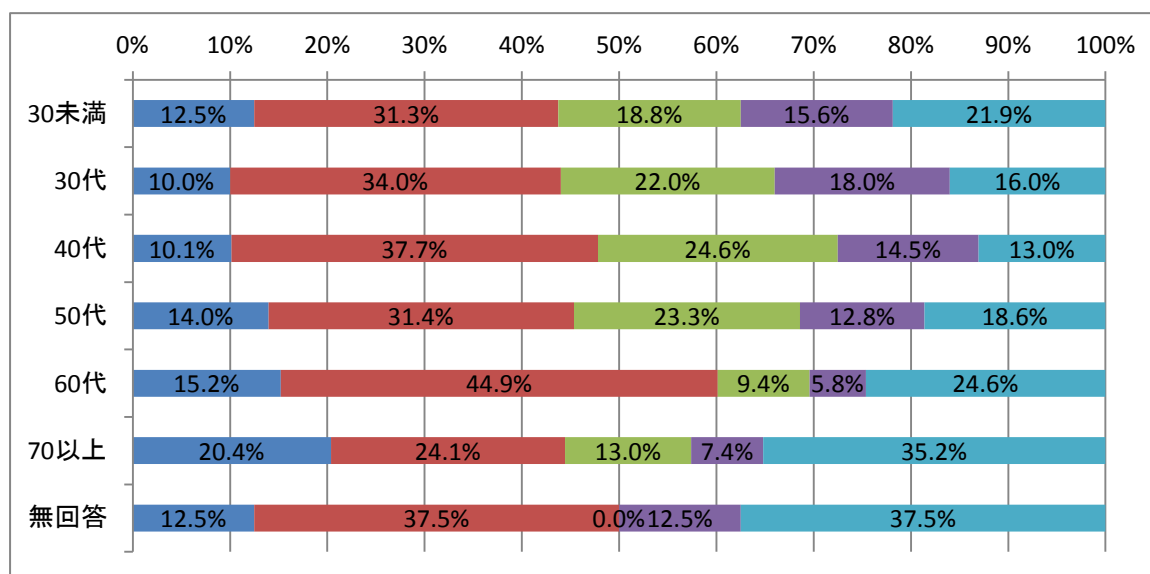
年齢別では、40代以上に比べ30未満・30代の若年層の満足度が低い結果となった。

【調査概要】

(全体・男女別)



(年代別)



調査期日：平成 27 年 5 月 28 日～6 月 15 日

調査方法：毎年の市民アンケートの一環で調査（18 歳以上 74 歳以下の市民 700 人を無作為抽出）

回収率：62.4%（437 人）

5 経済波及効果分析等

本プロジェクトにおいて実施した施設整備事業及び大規模大会開催における経済波及効果は、①建設費支出による効果（12 億 1,520 万円）、②大会事業費支出による効果（1 億 6,520 万円）、③大会参加者の消費支出による効果（2 億 8,700 万円）を合わせると、合計 16 億 6,740 万円であったと推計される。

(単位：百万円)

	直接効果	一次波及効果	二次波及効果	総合効果
①建設費支出による経済波及効果	782	248	185	1,215
②大会事業費支出による経済波及効果	108	35	22	165
③大会参加者の支出による経済波及効果	177	74	36	287
合計	1,067	357	243	1,667

※②, ③の算出基礎とした大会は、全国高等学校スキー大会（H26）を含む H24 から H26 まで開催した 6 大会。

6 その他参考となる事項

【成果指標外の成果】

○スキージャンプ・スポーツ少年団員数の増加

	H24	H25	H26
団員数	13 人 (男 13、女 0)	20 人 (男 18、女 2)	20 人 (男 18、女 2)

○世界大会での地元選手の活躍

平成 25 年度：ノルディックスキージュニア世界選手権クロスカントリーに花輪高校から 1 名出場

平成 26 年度：ノルディックスキージュニア世界選手権の複合に花輪高校、小坂高校から各 1 名出場

○全国大会での地元選手の活躍

H24	花輪第一中学校女子が全国中学校駅伝大会に出場 花輪高校男子と女子が全国高校駅伝競走大会に出場
H25	十和田中学校が全国中学校スキー大会のコンバインドで優勝 花輪高校女子が全国高校駅伝競走大会に出場
H26	尾去沢中学校が全国中学校スキー大会のコンバインドで優勝 花輪高校女子が全国高校駅伝競走大会に出場

7 民間アドバイザーの意見

(民間アドバイザー:筑波大学大学院 人間総合科学研究所 准教授 高橋 義雄 氏)

(1) 「スキーと駅伝のまちづくり」の普及に関するトップアスリートとの連携について

鹿角市がトップアスリートと連携して「スキーと駅伝のまちづくり」を普及させるためには、対象がスポーツ少年団員をはじめとする地域住民なのか市外なのか、そのためにトップアスリートに求めることが何かを明確にすること。

トレーニングを目的として鹿角市に来ているトップアスリートに対しては、地域との交流や情報発信がトレーニング環境を悪化させる場合があるので、選手の負担が増えるようなことは避けるべきである。そのため、スケジュールや依頼内容の調整などは選手のマネージメントをしている人物も含め綿密かつ熱心な折衝が重要である。

(2) 合宿誘致など国内外へのPRについて

F I S (国際スキー連盟) や各競技団体、国内外のチームに対し鹿角市のまちづくりの取り組みや施設・環境などを積極的に情報発信し、鹿角市に呼び込むことができるキーマンが必要である。

また、次期冬季オリンピックは平昌 (2018 年) と北京 (2022 年) であり、海外チームが日本でトレーニングや時差調整を行うことが予想されるため、国際的な活動やサポートできる人物が求められる。

(3) 若年層の満足度向上について

アンケートの結果、30 代未満や 30 代の若年層の満足度 (「満足」及び「やや満足」) が 5 割に満たない状況である。各種大会にあたり、地域の若者が積極的に参加したり、大会運営に関わるなど、若者をターゲットにした大会の仕組みを検討することが肝要である。

(4) ジュニア選手の強化について

目標を秋田県内におけるトップレベルの維持とするのか、全国大会制覇とするのか、設定を明確にするとともに、小中高の指導者の意思統一と個々の選手の育成についての情報共有を図ることが必要である。

8 全体評価

プロジェクト構成事業については、計画した事業を概ね実施に移すことができ、施設環境の充実と全国規模の大会やスポーツ合宿を通じて、予定どおりの賑わい創出と地域活性化を図ることができたと考える。特に、韓国スキー連盟からの合宿が平成 25 年度以降継続していることは、本プロジェクトの大きな成果と捉えることができる。

また、競技人口の底辺拡大と競技力向上という目標に関しては、関係する 2 つの成果指標のうち 1 つの指標が目標に達しなかったが、強化指導員の配置などの市単事業や強化プログラムの実施に係る県・市協働事業など、プロジェクト 2 年目から事業内容の拡大を図りつつ進めたことで、少子化の中でも一定の競技人口を確保することができた。

今後は、花輪スキー場が国内ジュニア選手強化の中心的施設となるよう、施設整備の検討と関係機関への働きかけを行いながら、引き続き、本プロジェクトの成果を基礎として、トップアスリートとの効果的な連携や若年者を巻き込んだ取り組みを検討することなどにより、鹿角市の優位性を生かした「スキーと駅伝のまちづくり」が地域の活性化に資するよう、取り組みを進めていく。

9 今後の推進方針

民間アドバイザーの意見や全体評価を踏まえ、次のとおり推進するものとする。

(1) トップアスリートとの連携について

市の魅力を市内外に発信することを目的として「トップアスリート応援大使制度」の検討を行う。

(2) 合宿誘致など国内外へのPRについて

スポーツ合宿助成制度の周知と関係団体への働きかけを継続し、合宿の誘致を進める。また、アルペンスキーのFIS公認大会の継続を目指すとともに、マラソンコース（ハーフ）の認定による新たなマラソン大会の開催、地域活性化センター助成の終了後のサマーノルディックスキー大会の後継大会の開催について検討する（平成 29 年度にはねりんピックでマラソン大会を開催）。

さらに、これまでの全国大会開催によって築かれた関係団体とのネットワークを生かすとともに、県との連携により、国外からの合宿誘致や冬季国体スキー競技会の定期開催などに向けたPR活動を行う。

(3) 若年層の満足度向上について

市が進める「スキーと駅伝のまちづくり」の経済波及効果のPRやトップアスリートによる情報発信を通じて、若者を含む市民意識の高揚を図るとともに、運営に地域の若者が関わるなど、若者をターゲットとした大会の仕組みを検討する。

(4) ジュニア選手の強化について

市教育委員会への指導員の配置を継続し、競技人口の底辺拡大を図る。

引き続きトップレベルの指導者の協力を得て、クリニックの実施回数を増やすなど指導機会の拡充を図る。また、素質のある子どもたちを早期発掘し、計画的・継続的に指導する「アスリート鹿角キッズ事業」により、競技力の向上を図り、世界大会に出場する選手を継続的に輩出することを目指す。

【プロジェクトチーム構成員】

鹿角市	政策企画課、産業活力課、スポーツ振興課
秋田県	スポーツ振興課（幹事課）、地域活力創造課、鹿角地域振興局